

日時 平成 25 年 7 月 24 日（水） 午後 3 時～午後 4 時 15 分

場所 鎌倉市役所第 3 分庁舎 1 階 講堂

議事

1. 確認事項

【事務局】 情報公開、議事録の確認だが、前回同様、今回配付した資料は、全て情報公開の対象としたい。

また、本日の会議の議事録についても原則公開になるので、作成次第、委員の皆さんに確認の上公開するが、発言者の氏名は非公開とする。

次に、第 7 回専門部会の議事録(案)については、事前に委員の皆さんに確認して頂いており、今回の内容をもって確定としたい。

なお、先ほど●●委員から資料 1 の 6 ページの住宅地図について、名前が記載されているとの指摘があった。これは、情報公開には不適格なので、名前を伏せた地図に替えさせて頂くことで対応したい。

【部会長】 事務局から議事録の最終確認及び情報公開について確認があったが、よろしいか。

【委員一同】 異議なし。

2. 議題

(1) 平成 25 年度社会実験案について

(2) 平成 25 年度社会実験案の実施計画について

(事務局から資料の説明)

【●●委員】 資料 1 の 3 ページのパッケージ施策の考え方の 2 番に記載されている C と D は、B と C の間違いではないか。

【事務局】 指摘の通りであるため、訂正する。

【●●委員】 資料 1 の 5 ページの新規路線バスの実証運行について、坂上停留所で乗降させると書かれているが、ここは片周りであり、循環バスの走行方向には停留所がないため、当該停留所では乗降させられないと考える。ハイランド停留所から坂上停留所を通り、ハイランドの中を周り逗子に向かうか、東泉水方面からハイランドの中を周り、坂上停留所を通過するルートになるため、明石橋に向かって左側にしか停留所がない。

【事務局】 現地を再度確認し、●●委員の指摘の通りであれば、坂上停留所の記載を削除したい。

【部会長】 臨時に停留所を設置することは難しいのか。

【●●委員】臨時の停留所を設置する場合は、近隣の方の了解を取ることも含め、現状では難しいと考える。

【部会長】東泉水停留所も同様に片側のみ設置されているのか。

【●●委員】坂上停留所やハイランドの中の停留所のみが片周りであるため、道路の片側のみ停留所を設けている。

【部会長】了解した。他にはいかがか。

【●●委員】地方に行くと、停留所が片側のみで、その反対側もバスが停まる場合があるが、その様な場合でも許可が必要になるのか。

【●●委員】許可が必要である。

【●●委員】坂上停留所に停まらず急行になると、少々実験が委縮してしまう気がする。

次に資料1の2ページについて、「A. 新規路線バスの運行（新規循環バス）」は左の表に書かれている①、②、③の全てを実施するものと理解しているが、資料公開の際に、仮にこの表だけ見た人が、①は実施するが、②と③について今回は実施しないものと受け取る危険があるのではないかと。右の表でも「A. 新規路線バスの運行（新規循環バス）」は①から③まで全て実施するということがもう少々明確になる様に工夫にした方が良くと思う。例えば、左の表に書かれている内容を右の表にも記載してはどうか。

【事務局】指摘の通り工夫する。

【●●委員】また、随所にビックデータという言葉が出てくるが、これはビッグデータが正しいのではないかと。念のため調べて頂きたい。

【事務局】了解した。

【部会長】資料1の2ページの表については、旧に比べて新の箇所が削られている印象がある。新のところが重要であるため、同じ内容のものをコピーしても構わないと思うので、表現方法を少々工夫する必要がある。

【●●委員】資料1の2ページの表の新の実施は、平成25年度で正しいのか。

【事務局】今年度の社会実験の公募に応募し、平成25年度に実施することになる。

【部会長】資料1の2ページの「B. 鎌倉めぐり手形の発売」については延期と書かれているが、従来の鎌倉フリー環境手形はそのまま社会実験時でも発売しているという認識で良いか。

【事務局】従来の鎌倉フリー環境手形はこのまま継続するが、消費税の増税に伴い料金が増える予定である。これについて、今週末に各交通事業者と協議する予定である。消費税の増税については、これから結論が出るようだが、念のために各交通事業者と調整していきたいと考えている。基本的に鎌倉フリー環境手形は今後も継続する予定である。

【部会長】資料1の2ページの表に、鎌倉めぐり手形の実施は延期するが、従来の鎌倉フリー環境手形は継続するなどを記載した方が良いのではないかと。

【事務局】了解した。

【●●委員】資料1の8ページの広報について、1月1日号はいつ頃から配布するのか。

【事務局】1月1日号は12月下旬から1月1日までに配布される。

広報への掲載を3度予定しているが、1月1日の紙面は一杯になることが想定されるため、その点は事前に秘書広報課と調整したい。

【●●委員】資料1の7ページに、循環バス利用者アンケート調査、利用者数調査と書かれており、調査員がバスに乗り込んでアンケート用紙を乗客に手渡す方法で調査を実施すると思われる。ただ、乗客で混み合っている車内で、アンケート用紙を配布すると、車内がより混雑して、少々問題ではないかと。

【事務局】基本的には、この社会実験は、市民や学生の協力を得ながら実施する意向である。ただ、アンケート用紙の配付は専門の方をお願いする予定である。なお、走行中のアンケート用紙の配布には当然問題があるため、停車した際に配布することを想定している。そして揺れる車内での記入は危険であるため、基本的には郵送回収を考えている。

【●●委員】当社が乗降調査を行う場合も、専門の調査員が乗車口でカードを配り、降車口で回収している。今回のアンケートも郵送回収と認識しており、車内での記載をお願いするものではないため、基本的には大丈夫だと思う。

調査員はアンケートの配布と時間のチェックを1名で行うのか。

【事務局】2名で行う。時間のチェックは専任でないと難しいと思われる。

【●●委員】当社が乗降調査を行う際は、配布と回収を1名ずつ乗車させ、そのどちらかの担当者に各停留所の停車時間のチェックを併せて担当させている。アンケートの配布のみであれば、1名でも十分ではないかと。

【事務局】どこで乗ってどこで降りたかという調査も併せて行うことを考えている。

【●●委員】それは基本的にはどのような手段で行うのか。

【事務局】乗車時に用紙を渡し降車時に回収をする方法を考えている。回収方法としては降車時に用紙を袋に入れてもらう方法がある。

【●●委員】了解した。

【●●委員】資料1の5ページの坂上停留所についてだが、青色で表記されている現行の路線では、駅方面から来たバスが帰っていくときに停車するのか。

【●●委員】鎌倉から来ると必ず反時計回りになる。よって、逗子から来れば坂上停留所は最初に停車し、鎌倉であれば最後となる。

【●●委員】鎌倉から来れば、新規と同じ停留所になってしまうのではないかと。

【●●委員】鎌倉から来た車両は、東泉水交差点からハイランドの住宅地内へと右折することになる。

【●●委員】坂上停留所よりもハイランドが先と言うことか。

【●●委員】そうである。ここでは逗子から来たバスも鎌倉から来たバスも、必ず反時計回りで周る。

【●●委員】バス停の設置を変えるために住民の了解を得ることは、それほど大変なことなのか。

【●●委員】近年停留所はプライバシーの問題もあり、ゴミ置き場と同じほど迷惑な施設という認識を持たれている方が多いため、住宅地内に新しい停留所を設置する事は非常にハードルが高い。今回の場合は短期間であるが、停留所の移設や新設をすることになると、地元の自治会の協力を頂き、併せて実際に停留所を設置できるかどうかを、道路管理者と交通管理者に実査してもらわなければならない。ただ、設置することは必ずしも不可能ではない。

【●●委員】地元との協議を行政から自治会へ依頼するのは難しいのか。

【事務局】近々、ハイランド自治会長とお会いする予定になっている。ただ、現状ではまだ社会実験の採択の有無もはっきりとしていないため、それらが明確になった後で、より具体的な相談をさせて頂きたいと考えている。

また、交通管理者の実査や許可などの関係上、例え社会実験とは言え、かなり大変なことである。今後の本格実施の際は、地元の要望も取り入れた上で、やはりバス停が必要であるということになれば、そのように進める意向である。

【部会長】通常路線バスは、東泉水停留所から右折をしてハイランドの住宅地内に入るが、その中にはバス停があるのか。

【●●委員】2箇所ほど停留所がある。

【部会長】ハイランドの住宅地内の住民は、今回は循環バスには乗れないということか。

【●●委員】東泉水もしくはハイランド停留所に移動して利用することになる。あくまでも実験の主眼は、県道金沢鎌倉線周辺の方の旅行時間の短縮であり、ハイランドの中に入ると余計に時間が掛かってしまう。もちろん、本格実施になった場合にどちらを通るのかは別の問題である。

【部会長】広報でその辺の周知を行うのか。

【事務局】個別に回覧する形を取るなど、全戸に周知できる方法を考えている。

【●●委員】情報提供のアンケートについて、ホームページでのアンケートはそこを見た人が書き込むが、駐車場アンケートは施策に対する内容だけではなく、鎌倉に来るのに何の情報

を基にしたかとの質問も加えて欲しい。恐らくラジオの渋滞情報やカーナビなど、結果的にはあまり頼られていない結論が予測されるが、これは来年度以降の施策も含め、ドライバーがどのような情報を当てにしているのかを調べるチャンスであるため、是非とも取り入れて頂きたい。

【部会長】是非、取り上げる方向でお願いしたい。

【●●委員】社会実験を実施する時は、在来の路線バスも運行しているのか。

【●●委員】在来の路線バスも運行している。

【●●委員】どちらに乗車しても運賃は同じか。

【●●委員】運賃については現在調整中である。同時に在来の路線バスと循環バスを運行する区間があること、そして、短距離の利用者よりも長距離の利用者の方がより運賃が安くなるという設定は、基本的な運賃の在り方としては疑問である。新規の循環バスについて今後どのような形で運賃を決定していくのかは、実験の問題もあるが、あるべき姿や既存の路線との整合性も考慮しなければならない。国土交通省に相談する必要もあると考える。社会実験の趣旨は尊重するが、本格実施となると一般の路線バスになるため、その時の運賃との差に大きな開きがあってはならない。しかしながら、例えば浄明寺や杉本観音辺りから鎌倉駅までの運賃を現状と同額にできるのかと言え、色々と知恵を絞らなければ難しい。杉本観音から乗車してハイランドで降車する運賃よりも、鎌倉で降車する運賃の方が安いなどということは、何のためにハイランドまで高い運賃を払うのかとなるため、上手にすり合わせをしていかなければならない。

【●●委員】運賃に関しては東京や横浜では一律 200 円でどこへでも行けるという運賃設定となっているが、鎌倉でもそのようにしてはいかがか。やはり経営者側の意見としては、そのような路線の実現は難しいということか。

【●●委員】東京、横浜、川崎といった大都市圏では路線が緻密であり利用者数も多い。その上バスはどうしても車内で運賃を頂くため、そこに時間が掛かれば掛かるほど交通に影響を与えてしまう。その様な理由から大都市圏においては均一運賃にしている。ただ、短距離利用をする方からは割高であるとの意見もあり、やはり運賃の有るべき姿とは乗車距離に比例した運賃を頂くことであると考え。公平で分かりやすい運賃を求めている現状では、均一運賃を採り入れることはないと考え。

【●●委員】その均一運賃はないと言うのは、従来の路線バスのことか、それとも両方共なのか。

【●●委員】両方とは、新規の循環バスのことか。

【●●委員】新規の循環バスはこれから実施するので均一はあり得るが、従来の路線バスについてはあり得ないと言う意味合いか。確かに従来の路線バスは距離と運賃との比例を考慮すれば良いが、循環バスについては距離と運賃の比例を考慮しようとも逆方向のため難しい。

しかし、従来の路線バスとの運賃の差を最小限にすることを考えると、やはり距離の要素を取り払い均一にするしかない。例えば、杉本観音からハイランドに行く運賃と杉本観音から鎌倉駅へ行く運賃とがおかしいのであれば、均一にする以外に方法はないと思う。

【●●委員】路線によって運賃の考え方が変わると、相当な理論武装をしなければならない。既存の運賃秩序とは全く違った運賃を導入するということになれば手続きも難しい。単純に3ヶ月の準備期間の中で処理できる案件ではないように思われる。

【●●委員】新しい循環路線の一部には、急行区間や反対側の停留所には停まらない区間があるためかなり特殊である。いわゆる従来の考え方で進めなくても良いのではないかと思う。逆に、従来の考え方では先程の様に運賃と距離の関係が逆になり、気持ちと現実が乖離してしまう。やはり均一運賃にする以外に方法はないと思うが、無理なのか。

【●●委員】それは従来の制度の中でも、可能な限りどこまで折り合いを上手く付けられるのかということになる。基本的には、今述べられたところが本来のあるべき形なのだろうと思うが、今の制度の中で、運賃体系をうまく設定する事が大切であると考える。

【部会長】新しいアイデアがあり、更に検討が必要である。やはりどう決めるにしても、当日利用する人に納得して頂くことが大切である。それについては事前に広報にて告知するか停留所書いておくのかなどかなりきめ細やかな準備が必要である。併せて資料1の6ページについても横断歩道があるから良いという話では済まないのではないか。所要時間をどこでどう出すのかという問題もあるが、信号に合わせて利用者が一斉に道路を横断し始める状況も危険である。その辺はかなりシステムとしての完成度を高めて当日を迎えなければならない。各停留所のどこで所要時間を出すのか、横断はどうするのかなど、その辺のマニュアルをかなり細かく作り込み、当日の運営をしなければならない。やはり安全対策を意識した実験にする必要があると思う。

【●●委員】今の部会長の意見で思い付いたが、観光客の中には色々な情報を見ずにやってくる人もいる。例えばスマートフォンで調べた人や、テレビで浄明寺の番組を見た人などである。それならば、やはりバス停にはこの様な社会実験についてのポスターを貼った方が良いのではないか。そして先ほどの運賃の話であるが、あくまでも大きな目標は渋滞をなくすことと時間短縮である。よって、所要時間の問題ではなく、全体を見て何分短縮されたのかが分かれば、ある程度成功なのではないかと思うが、その様な計測は不可能か。

【部会長】全体とはどの様なことか。

【●●委員】あと何分でバスが来るという情報がバス停に表示されていると思う。何分経ったらバスが来るという様なことよりも、この路線全体を使った場合では鎌倉駅到着までにどのくらいの短縮効果があったのかをアンケートに記入して頂く。バス停の名前を書くのではなくマップに丸をつけるなどすれば、アンケートへの記入が楽になるのではないかと思う。

【部会長】所要時間については、専門に計る調査員がいる。

【●●委員】待っている人や乗っている人に、リアルタイムで表示するものではないのか。

【部会長】つまり、資料1の5ページの中段にある所要時間の様なものを見て、どちらの路線に乗るかを決めてもらい、アンケートでは表示は分かり易かったか、その路線に乗って後悔しなかったかなどを聞くということか。

【●●委員】そうである。やはりこの実験において、時間は大きな目的の一つだと考える。

【部会長】少しシンプルな実験になってしまったが、かなり具体的にはなってきた。またホームページやハイランドの中をどう通すのかなど、今後の協議事項が見えてきた様に思う。今日の内容について問題が無ければ、今後の進め方について先程事務局から説明があった通り、本日提案として挙げて頂いたこととアンケートについては、次回の専門部会で議論して頂き、その結果を受けて検討委員会が10月の下旬に開かれる。そこで更に具体化し、11月の社会実験直前に専門部会を開く。そして1月下旬の実験が終わった段階で、もう一度専門部会を開く。

よろしければ今日の議論は終了するがいかがか。

【●●委員】資料1の10ページにある市役所駐車場利用者アンケートの問8で、使った概算金額についての質問があるが、この結果は鎌倉地域の商店の方にも知らせるのか。

【事務局】問8で概算金額を聞いたのは、昨年行ったアンケートでは、パーク&ライド利用者よりも、公共交通利用者の方が訪れる施設が多く、それに伴い使う金額も多くなっていたことから、今回もこの比較を行いたいと考え、設問に加えてある。

【部会長】もちろん結果は全市民に知らせる。

3. その他

【事務局】社会実験の可否については、国土交通省から9月上旬に通知される予定となっている。その結果を踏まえて第9回専門部会は9月下旬もしくは10月上旬を予定している。正式な日程については改めて通知させて頂くので、よろしく願います。

【部会長】よろしければ本日はこれで終了する。

以上